

## 柴北川プロジェクト通信 37号

— 平成26年度・竹林整備 — 平成27年2月21日(土)~22日(日)

### 1. はじめに

柴北の山桜の季節はとっくに過ぎ（通信 38 号ご参照）、ホタルが飛び交う時期となってしまいましたが、平成26年度の「竹林整備とその後の懇親会・意見交換会」の状況を遅ればせながら報告いたします。

いつもの竹粉製造機の故障で今回の竹林整備は、竹炭づくりが主でした。その後、「柴北川を愛する会」と「共助研」の合同新年会を兼ねた懇親会、その夜は、恒例ともなってきた「三浦亭での宿泊」、翌日は、最近の互いの状況等についての意見交換を行いました。

なお、以下掲載の写真は、柴北川を愛する会の渡辺事務局長より提供して頂きました。

### 2. 竹林整備の様子

2月21日(土)、濱田会員を除く、共助研のメンバー、山下さん・玉田さん・木寺の3名は、午後からの参加でしたが、「柴北川を愛する会」の皆様方と濱田さんは、午前中からの作業ということで、我々が現地到着した頃は、作業も半ば過ぎというところでした。

いつもその威力に驚かされる無煙炭化機と深い穴の2箇所、竹炭づくりが行なわれていました。我々は主に、枯れた竹の搬出を担当しました。



写真一1 無煙炭化機による竹炭づくり

なお、我々到着以前には、竹林前広場前までの進入路の整備（三浦さん運転のバックホウで）も、この日は行なわれたとのことでした。

枯れた竹の伐採、搬出を終えた竹林はかなり明るくなりました。



写真一2 進入路の整備



写真一3 明るくなった竹林（手前は杉林）

### 3. 合同新年会

作業終了後の今夜は、少々遅れた「合同の新年会」です。開始に先立ち、今年度の収穫祭時のビデオ上映がありました。

穴見会長の挨拶で懇親会の始まりです。橋本豊後大野市長ご夫妻の参加もありました。

多くの方々からアルコール類の差し入れの他、市長の奥様から「手作りケーキ・ピザ」、柴北川を愛する会のメンバーや奥様方から、「手作りサンドイッチ」「おこわ飯」「タカナの漬物」「ナババの酢の物」等の差し入れもありました。大変ありがたく頂きました。

波木事務局長もようやく到着、ほとんど全員が当たるという「お楽しみ抽選会」もあり、毎回のことですが大盛況でした。準備等々、レディースの皆さまを初め、大変だったこととお察し致します。



写真一4 橋本市長も参加



写真一5 お楽しみ抽選会の景品



写真一六 波木事務局長も遅れて到着

## 4. 三浦亭での2次会

宿泊は、今回も三浦亭にお世話になることになりました。三浦さん、奥様には、本当にお世話をお掛けします。三浦亭にて2次会が始まりました。

黒松神楽の名演舞者、樋口春夫さんのお話も聞けて、大変有意義な2次会でした。三浦さんの奥様の茶碗蒸しの他、柴北川のアユもごちそうになりました。



写真一七 三浦亭での2次会

## 5. さいごに

翌日は、互いの近況や今後の活動計画等について意見交換を行いました。田植え、稲刈り、竹林整備等々、様々な交流イベント等を通じて、「柴北川を愛する会」と「共助研」の交流は、定着しています。

共助研としては、「この交流の定着化をベースとして、さらに新しい試み等ができないか？」という気持ちがありますので、この点も含めて意見交換をさせて頂きました。

「原点に戻って“花いっぱい運動”の強化を行なう」、「プレイパークの実現」、「奥雲仙との交流継続」等々様々な意見は出ましたが、継続課題となりました。



写真一八 翌日の意見交換会の様子

それにしても、「柴北川を愛する会」の方々は、地域活動を熱心に継続されています。課題はあるとは聞いていますが、その秘訣をいつかは話題にしても良いかなとも考えています。我々、共助研も熱心に活動しているつもりですが、若い会員が入らないという大きな悩みがあります。

このような悩みがありますので、地域活動の継続の秘訣に触れた文献をネット上で検索したところ、たくさんの資料が見つかりました。代表的なものを紹介させてもらえば、以下のとおりです。

- 1) 永野ひとみ：高齢者の社会貢献と生きがい活動に係る考察
- 2) 渡辺大輔：退職後の日常生活と当事者のニーズ
- 3) 片桐資津子：福祉社会学における「生産性」概念

ご関心のある方は、ご一読をお薦め致します。

文献1)で紹介されている「神谷美恵子さん」の言葉を引用して、拙い報告のおわりにしたいと思います。

—— 生きがいということばは、日本語だけにあるらしい。こういうことばがあるということは、日本人の心の生活のなかで、生きる目的や意味や価値が、問題にされて来たことを示すものであろう。

—— (神谷美恵子)

(文責：木寺、 写真：渡邊)